

パート・フォーラムで学んだ 非正規差別・国籍差別 撤回の闘い

2024年6月9日、神戸市中央区文化センターで兵庫県パート・ユニオンネットワーク定期総会が開催された。「非正規差別・国籍差別撤廃の闘いから学ぼう!」とのテーマのもと、臨職評・ユニオンなど県下加盟団体から多くの方が参加することとなった。

総会では23年度の活動報告や会計・人事議案の他、活動の骨子となる「運動のすすめ」が議決され、本年度の具体的な方向性が示された。後に開会されたフォーラムディスカッションでは闘争報告や記念講演がもたれ、労組が活動する上で直面する様々な問題が具体的な事例を通して共有された。

兵庫県下の最低賃金は1000円を超えている。しかし、生活実態からいけばまだまだ十分な賃上げとはいええず『今すぐ1500円』の声を上げていこう。大企業では過去最高の賃上げが実施されたといわれているが、実質賃金は24ヵ月連続で低下しており、社会的弱者の生活は切り捨てられている。企業間にとどまらず、正規・非正規・国籍間で労働者が分断されている。今回のフォーラムではその現実を目の当たりにさせていただいた。

記念講演の講師に招かれた名古屋ふれあいユニオンの佐藤サユリさんは外国籍従業員への不当待遇に対して立ち上がった方であった。佐藤さんは絶対に負けるといわれながらも、自動車部品を製造する会社で、同じ仕事なのに日本人正社員はボーナス100万円、外国籍の契約社員は同4万円の差別的な扱いに対し裁判闘争に立ち上がり、5人のユニオン組合員により100人の正社員化を勝ち取った。まさに最後まで諦めずに闘い抜かれ、労働者の鏡といえる働きをおこなわれた方であった。

しかし、本来、これは企業内労組が取り組まなければならない問題であったはずだ。闘争報告においても、記念講演においても企業内労組の形骸化が指摘されていた。労働者の側に立たない労組に価値はない。我々に求められているものは審判的態度ではなく、労使という権力構造への視点である。幅広い人々との連帯がなければ今だけ、金だけ、自分だけという考えが世の中の当たり前になってしまいかねない。兵庫県パート・ユニオンネットワークの力強い活動が期待されている。

